

**PRESSBOOK**

HUANG Yuxing

*Bijutsu Techo*

*November 2016*



Bijutsu Techo  
November 2016  
Emma Ota

ARTIST PICK UP



ギャラリーペロン香港の会場にて Photo by Ringo Cheung

彼らが時間の美しさを表現していることに気づ

**肉体は生死や何百年もの時を運ぶ血管となり、人間関係の基となる記憶や、パーソナルな感情をも運ぶのです。**

面から仏教との関連性が

113

## 黄

字興(ファン・ユンシン)の絵画には、見る者がまるで中毒になるようなインパクトがある。絵画のサイズが物理的に大きくなっただけでなく、この数年で、黄の絵画の存在感は増すばかりだ。身体に強く訴えかける風景は見る者を無防備にし、強烈な構造と色で訴えかける。北京の中央美術学院で壁画の勉強をした黄は、キャリアの初期の頃からチベットの古代壁画に憧れ、学生時代に初めて訪問したチベットで、それまで体験したことのない光や色、そして空気が出会った標高数千メートルにある寺院の壁や古の表面に描かれた鮮やかな絵画を研究するなかで、時間の流れやその神秘と向き合った。黄は、壁画の顔料について、それらが時間の美しさを表現していることに気づ

いて驚いたと語る。壁画の色は、数百年かけてだいたい変化していく。様々な生活の積み重ねをみることが出来ます。例えば、寺院の中で火を使つて調理をする習慣がありますが、そのときの煙が壁に付着すること、そこで人々が生きていた時間は物理的に絵に染み付きます。また、小さなヒビがあればそこから過去を垣間見ることが出来るのです。

自身の作品において仏教などのような役割を担っているかを聞くと、黄は仏教的なイメージを作品に直接反映することはあまり好きではないと語り、作品のモチーフとして人間関係と説明する。黄自身は、チベットではないものの、チベットの仏教に敬意を表し、絶えず理解を深めようとしている。絵画の表面から仏教との関連性が



成熟の樹 2016 キャンバスにアクリル絵具 176×230cm Courtesy of Galerie Perron

## HUANG YUXING

黄宇興(ファン・ユンシン)

### ヒマラヤの幻想的な光や空気と、人間社会の抑圧が見事に融合する

チベットの古代仏教壁画に影響をうけ、北京を拠点に活動する黄宇興。自然に対する心からの尊敬と、強い感情を反映した構造や裂傷が交差するとき、実質性を失った世界で絵画は本来の身体性を取り戻す。

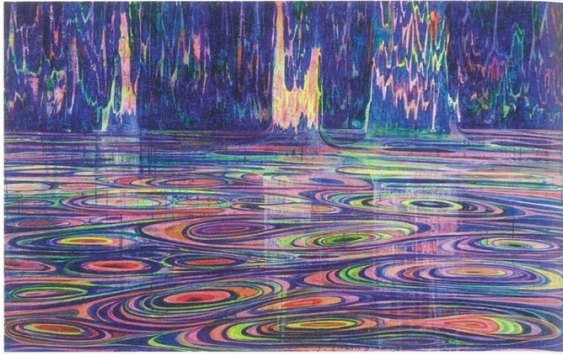
吉田エマ=文 Text by Emma Ota

編集協力=佐伯花子 Editorial support by Hanako Sasaki 112



**Bijutsu Techo**  
**November 2016**  
**Emma Ota**

ARTIST PICK UP



河(しがきと湧巻) 2014 キャンバスにアクリル絵具 200×125cm Courtesy of the artist

**HUANG YUXING**

1975年中国、毛沢東生まれ。2000年中央美術学院(北京)卒業。ビジュアルカルチャーから切り取ったイメージを用いた初期の『肉食動物』シリーズや、近年のサイケデリックなパターンを思い起こさせる『閃』シリーズで知られる。2015年個展に12年北沢コミュニティ、15年余徳輝美術館(上海)など。15年に初の個展『閃』を民生現代美術館(上海)で開催。主なグループ展に16年Night Gallery(ロサンゼルス)、北京今日美術館など。

大鑑「1999年他社」という表現とも類似している。キャンパスの上で感情と肉体が分離したパララになる、自由になつたというエクスタシーも感じられる。自身もLGBTのコミュニティメンバーであることから、黄は身体政治力をよくわかつている。性のアイデンティティや周りの社会のスタンダードについても深く考え、またチベットに関する活動理由として2008年には国家安全保障局に逮捕・監禁された。身体が奪われることも直視体験している。この10年間で黄のスタイルは大きく変わった。人気のアイコンな

**INFORMATION**

**ファンクション AND NE FORHTEDON NA**  
 9月1日-10月15日、ギャラリーペロト(香港)にて開催。展覧会名は、スペイン語で「恐怖は15ない」という意を表す。本展では60cm以上の大作から小品まで、14点の新作絵画も展示した。  
 ◎11:00-19:00 日月  
 ●17F 50 Connaught Road, Central, Hong Kong  
 ☎+852-3758-2180  
 ◎www.perotin.com

い。作品の奥深く、いちはんこのところまで、作品と私を密接につなぐていこと。しかし、超越を目指す私教に対し、黄の作品は肉体がもつリアルさを主張する。黄の作品は濃い重光色を使っており、その激しく彩られた世界を前にすると、私たちはもの見方、つまりは見るという現象学的な動きの境界に直



ソフトウエア工場 2016 キャンバスにアクリル絵具 202×275cm Courtesy of Galerie Perotin

が床に散らばった新世代では、完全に疲れた状態が伝わってくる。それに対して、ソフトウエア工場ではバーチャルな知識労働者が描かれていて、彼らは身体的負担を課せられることはない。神取の多い中で、この二つのタイトルからは資本主義から解放された労働への憧れに対するアイロ

面する。黄は自身の作品を次のように説明する。「解体された肉体や骨格、そして抜き取られた内臓、それらをつむぐことで私の絵画はできています。そしてその要素は生死や何百年も時を遡る血管となり、人間関係のものとなる記憶や、パーソナルな感情も運ぶのです。また、黄の絵画には身体の動作も描かれていて、労働者の肉体的労働を表現し、たくさんの身体

自由を渴望する、引き裂かれた臓器。上海の民生現代美術館で行われた黄の大規模個展「15年」でキ

二りが読み取れる。二にも近づくような不安、破壊の予言を思わせるような意匠もある。絵画の構造や色が破壊された折れ、手足の残骸が画面のあちこちに落ちていて、秩序ある世界が徐々に崩壊していく様子を描いた(成熟の樹がある。これは危機感に直面する瞬間を描いています。若者が経験する危機です。しかし、小退であるホルヘ・ヘルス・ホルヘの碑銘からこの展覧会のタイトル「AND NE FORHTEDON NA」(英語では「死なない」)が示すように、黄は「同時に、未来への扉も開きます」と続ける。また、胎児が登場する「シエル」という作品では、生命の孵化が描かれている。このことから感じるとるべき。

を描くところから始まり、神話的な存在を描き、そして今では抽象的な絵画を描くようになった。これまでは中国国内を中心に自身の作品を展示してきたが、近年は香港、フランス、アメリカでも作品を発表する機会が増え、作品の価格も徐々に上昇している。これからもますます活躍が期待される黄は、新たな挑戦を続ける。この数年、アートマーケットの動きがあつたことは知っているが、そのことで制作に対する姿勢は変わりません。リスクを背負うことを自らに課し、これからは彫刻がもっと可能性も追求していきたいと思っています。

レータを渡めた。朱朱は、前述のような不安を、現代美術キネレターのヘレン・ボスターの「別離」の不安に因連づけて読み解く。「20世紀後半に切断された身体が登場したのは偶然ではない。それは暴力や抑圧、不平等、そして心身のストレスに支配された世界に生んでいく結果だ(同展のカタログより)。このように身体が切断されることは、アントナ・アルトやジル・ドゥルーズの「器言なき身体」(欲望や強烈な感情の維持強度である)である。あるいはアルトの「神の最も忌避するための言葉」(消えることのない、批判の傷痕)である。機器に対する拒絶と結びつけて考えられる傾向にある。また、黄のキャンパスの傾きがみかからは、戦後に肉体は占領した占領されたという二ヒズムを強調した。舞踏の先駆者、土方翼の「空っぽなふいこ」になつた。舞踏者になつて内臓を一切切表へ追いつて遊びました(土方翼舞踏